

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
野々木 宏			
月1、2			
添付ファイル			

科目の概要	各疾患に適切な栄養管理や栄養指導を実施するにあたり、その根拠を考えるうえで必要な解剖生理を理解する。
授業の内容	<p>第1回 内分泌臓器、構造と機能 ①脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、</p> <p>第2回 内分泌臓器、構造と機能 ②副腎、その他</p> <p>第3回 筋肉・骨格系、構造と機能 ①全身の筋肉・骨格の仕組み</p> <p>第4回 筋肉・骨格系、構造と機能 ②上肢・下肢の筋肉・骨格の仕組み</p> <p>第5回 神経系、構造と機能 ①中枢神経と末梢神経系、神経の仕組み</p> <p>第6回 神経系、構造と機能 ②脳機能の局在、脳神経</p> <p>第7回 神経系、構造と機能 ③脊髄神経、運動神経</p> <p>第8回 神経系、構造と機能 ④知覚神経、自律神経</p> <p>第9回 感覚系、皮膚の構造と機能</p> <p>第10回 生殖器系、構造と機能 ①男性生殖器、女性生殖器生殖器系、構造と機能</p> <p>第11回 生殖器系、構造と機能 ②受精と出産、胎児</p> <p>第12回 体温調節機能</p> <p>第13回 加齢における臓器の変化</p> <p>第14回 免疫の仕組み、ストレスへの反応、腸内細菌叢</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	病態生理学や臨床栄養学に必要な解剖の知識を整理する。
授業の方法	テキスト、パワーポイント等の資料使用、毎回小テストを実施し理解度を確認する。
成績評価の方法	定期試験80%、平常点20%（小テストの結果を加味する）
教科書・テキスト	前期に使用した 読んでわかる解剖生理学 竹内修二 医学出版社
参考書	なし
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	テキスト重視、レジメを事前配布し予習をし、また小テストの解説を利用して復習を行う。
履修上の留意事項	栄養学に必要な基本的な解剖学の知識を習得する。これが疾病の理解と栄養療法の重要性を理解するうえで必須となる。そのため授業時間内での習得を強く勧める。これから社会人となる基本的モラルが必要であり、私語を慎み、スマートフォンや他の作業は授業の妨げとなるため禁止する。積極的な質問は歓迎します。
オフィスアワー	非常勤講師室にて授業終了後に対応
実務経験	これまで循環器診療、集中治療、救急医療に従事し、臨床医学の実践と臨床研究、また医療従事者・学生への

	教育に従事してきた。重症例への栄養療法の重要性を臨床例で経験してきた。
その他	なし